- 1 日時 令和4年11月7日(月) 午後1時30分から午後2時50分まで
- 2 方法 Webexによるオンライン開催
- 3 出席者

【委員】

岩重佳治(委員長)、平賀正司(副委員長)、勝又陽太郎、大谷典生、池田真人、宮﨑舜賢、羽鳥賢三、戸所綾子、阿部円(代理)、前田宥全、和泉純治、市川喜司、加藤亨、佐藤博幸(代理)、熊谷誠、佐々木芳仁(代理)、永吉浩二(代理)、金丸孝雄(代理)、田中智彦、北澤千恵子、渡瀬博俊、生島憲

【事務局】

健康推進課長、予防係長、健康推進担当係長他

議題

- 1 区内の自殺の実態
- 2 自殺対策に関する区の取組状況
- 3 自殺対策計画進捗確認シート
- 4 その他

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、昨年度に引き続きオンラインでの開催とした。 議題に入る前に委員の互選により岩重委員を委員長として選出し、委員長により平賀委員が副委員長とし て選出された。

議事の経過

1 区内の自殺の実態について

【事務局からの説明】

令和3年度の自殺者数は32人で、自殺率18.76となっており、令和2年度(24人、14.26)より悪化したが、9月末時点での今年の暫定値は8人、年換算で10.67人と減少傾向にある。8人全員が女性であり、過去10年間の傾向を見ると、女性の割合が増えていること、また20歳代の自殺者の割合が増えていることが分かる。

職業別では、無職の方が12人と令和2年(14人)より減り、割合も6割弱から4割弱と減っている。原因・動機別に見ると、例年同様、健康問題が第1位、続いて経済・生活問題、男女問題、その他となっているが、これは都・国とも同様な傾向である。手段に関しては、首つりが43.8%、飛降りが40.6%となっており、飛び降りの比率が高いのが特徴となっている。

【委員からの意見】

統計数理研究所の分析では、女性の自殺率の伸びが大きいのは、場所的には観光地、職業的にはサービス業とされている。ただ、これだけでは説明が難しいことも多く、併せて若者、とりわけ学生・児童生徒が増えていることも考えなければいけない。実は学生・児童生徒の世代の自殺者はコロナ禍前、2018年頃より増えており、コロナがそれに拍車をかけたのかもしれない。

私の研究では、過去5年、コロナの前後で、ある特定地域での自殺事例を調べたところ、コロナ後は複数の精神疾患を有する女性の自殺が有意に増えている。もともと複雑な困難を抱えていた女性がコロナ禍で困難をさらに抱え、耐え切れなくなったという印象がある。

2 自殺対策に関する区の取組状況について

【事務局からの説明】

本区の自殺対策は大きく「普及啓発活動」と「人材育成」に分かれている。

普及啓発活動については、毎年度9月と3月の自殺対策強化月間に合わせて、普及活動を実施している。9月は保健所での懸垂幕の掲示、区報での特集記事の掲載、区内4施設(本庁舎、日本橋・月島特別出張所、保健所)でのパネル展示の実施、さらに図書館と連携して、京橋、日本橋、月島の3図書館で、小中学校の夏休みに合わせ自殺予防関連図書を展示した。3月には江戸バスでのポスター掲示や、警察等の関係機関とともに街頭キャンペーンを行う予定。

人材育成については、ゲートキーパー養成講座を2回行う。1回目は10月18日(火)に区職員向けに 実施した。2回目は来年3月に区内在住・在勤者向けに行う予定。

【委員からの意見】

ゲートキーパーに求められる役割は、実際のその人の立場で変わってくる。その辺を踏まえて、他自治体では、初級クラスとアドバンストクラスと段階を分けているところもある。もっと突っ込んで学びたい場合には、ワークショップやロールプレイングなどを行うこともありかなと思う。その辺は区で検討いただければと思う。

3 自殺対策計画進捗確認シートについて

【事務局からの説明】

関係部署や団体の協働による自殺予防に資する事業が中央区自殺対策計画に84個リストアップされている。これらの事業を連携させ、生きづらさの軽減という区における自殺予防対策の理念を達成するため、自殺対策計画を前進させていきたい。

【委員からの意見】

自殺の原因・動機が1つではないのを受け、様々な困難を抱える方向けに、生きるためのいろいろな行政サービスがある一方、困っている方が必ずしも適切な窓口に来るとは限らない。例えば高齢者の問題で福祉の相談窓口に来たら、実は借金やメンタルの問題も抱えていたケースもあるかと思う。役所に1つの相談窓口、1つの部屋があり、そこに相談者が来ると、関係する部署の職員が入れ替わりやって来て、ワンストップで相談に対応する体制を検討いただければと思う。

4 その他

【事務局からの説明】

次回協議会は来年度に対面での実施を予定している。中央区自殺対策計画改訂の年なので年2回の開催予定、時期が近づいたらあらためて連絡する。